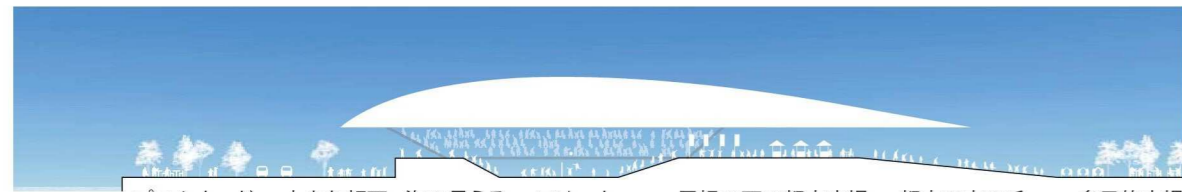




新しいシンボルとなる大きな一枚屋根

「第二の空」としての大きな屋根の下に、様々な市民の活動が集まります

柔らかな光を透過する一枚屋根が、「第二の空」として都市の中に開放的な居場所をつくります。ゆるやかなランドスケープ的な起伏の中に、アリーナ、海の見えるロビー、都市広場など多様な活動が展開する、新しい公共空間を提案します。



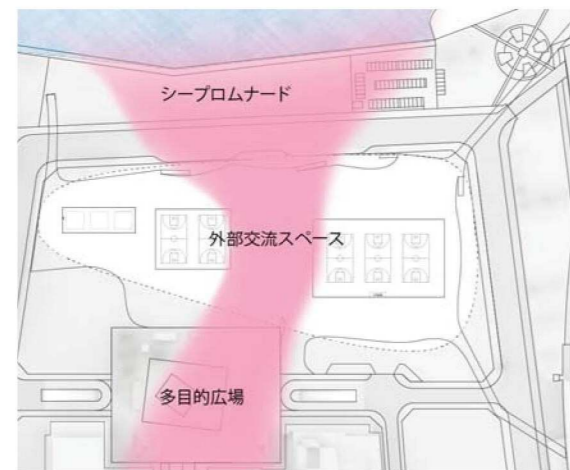
海/港/既存施設をつなげる、都市のハブとしての開かれた公共空間

デッキ上の歩行者交通の中心に交流スペースを配置し、街とシステムに繋がった、都市のハブとしての公共空間とします。



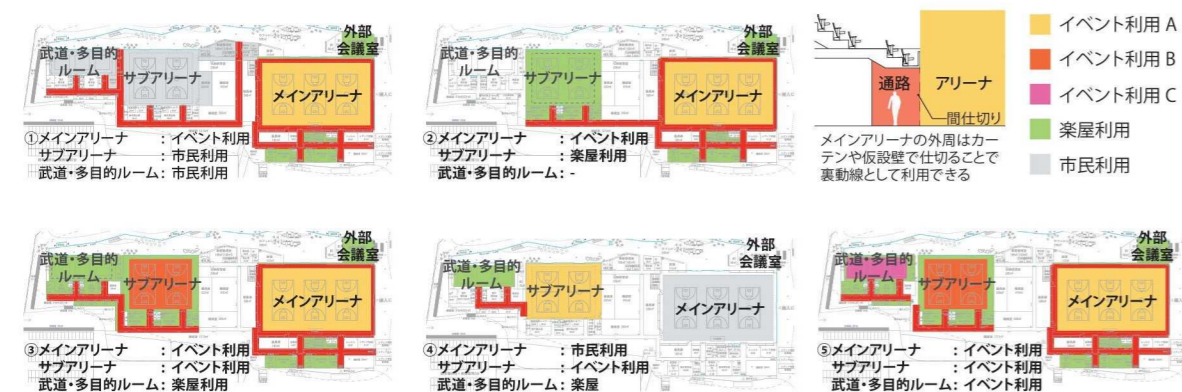
屋根に守られた都市広場が、海と街をつなげます

多目的広場から瀬戸内海へ都市広場を介して都市のヴォイドを連続させます。建物が都市空間を内包して拡張します。



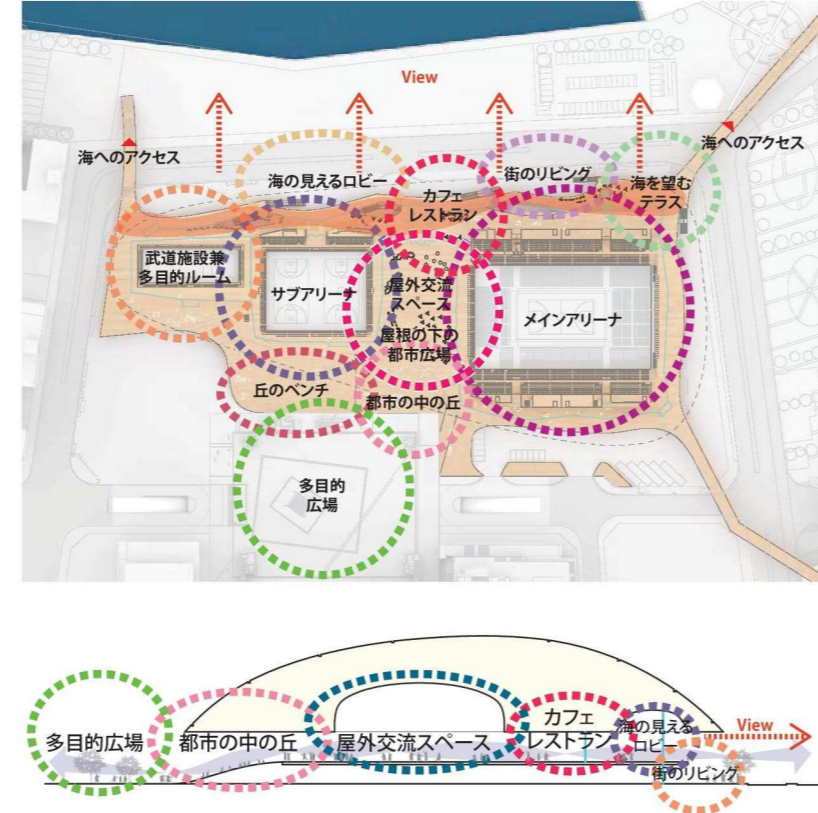
外部会議室や各アリーナを控室等としてフレキシブルに利用することで、多様な利用形態に対応できます

国際的な大規模スポーツ大会やコンサートなどの大きなイベントから、日常的な市民活動まで様々な活動に対応するため、各控室や動線をフレキシブルに活用できる平面計画としています。それぞれのアリーナの管理動線を一本でつなげているため、相互にフレキシブルに連携することができます。例えばメインアリーナだけで大きなイベントを催すときは、管理ゾーンを介してサブアリーナを控室として利用することで、十分なバックスペースを確保することができます。また、メインアリーナの周囲は管理動線として仕切ることができるので、外部会議室なども適宜控室などとして利用することができます。

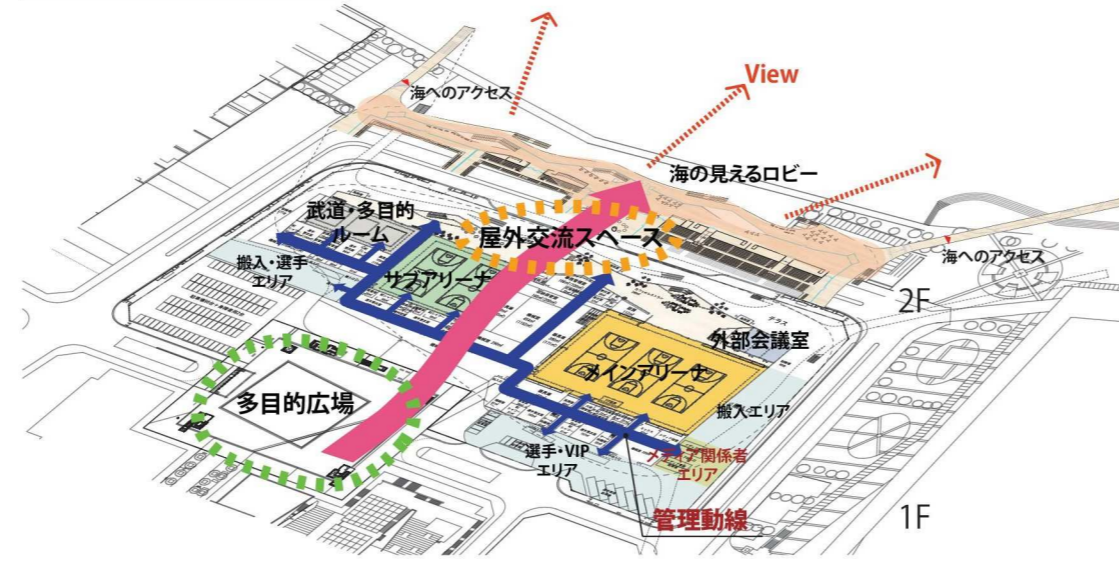


大きな屋根とひとつつながりのデッキ空間によって、周辺環境と連続した多様な空間をつくります

緩やかな勾配の起伏によって、多目的広場と2Fレベルの都市広場(屋外交流スペース)が連続します。都市広場の先では、ロビーを通して全面に海を眺めることができます。

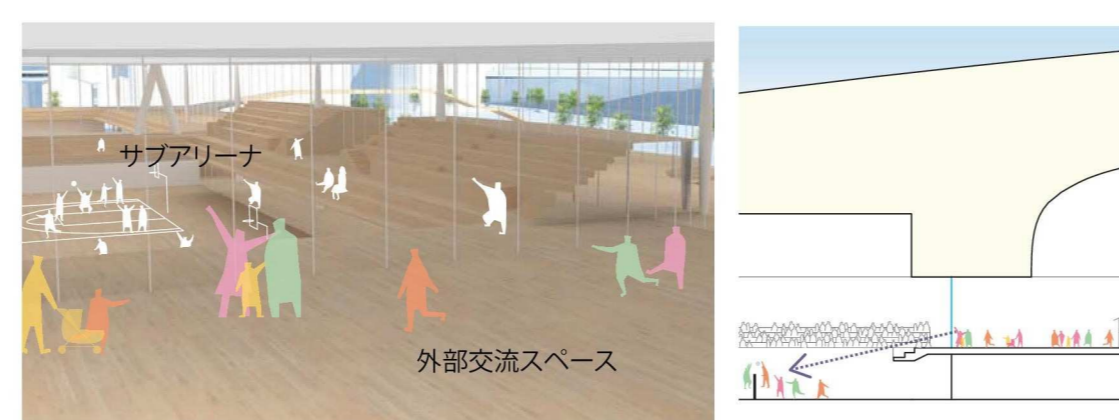


多目的広場からの人の流れを2階レベルに引き込むことで、1階の管理動線を途切れずにつなげることができます。また、2階レベルの交流スペースは瀬戸内海を望む特別な空間となります



通りがかりにふと体育館を覗き込むことができます

屋外交流スペースから見下ろす位置に各アリーナが配置されているため、多様な活動が日常的な風景となります。



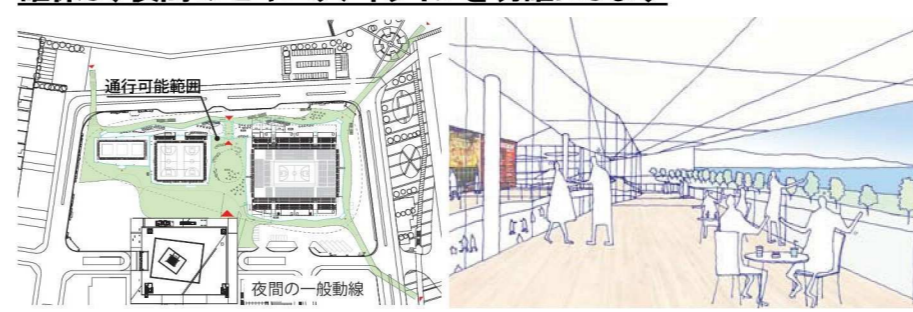
周囲の山々と調和するおらかな大屋根



大屋根は瀬戸内海に浮遊する島々の一部となります



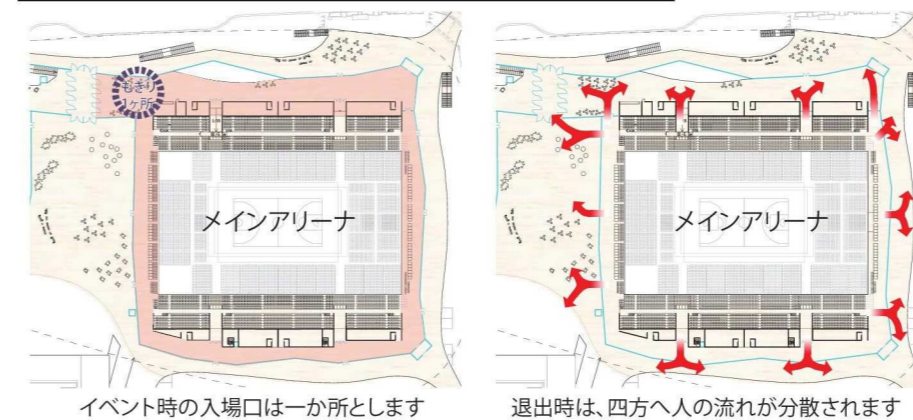
2Fレベルのデッキによって、車道と分離された安全な歩行者動線を確保し、夜間のセキュリティラインを明確にします



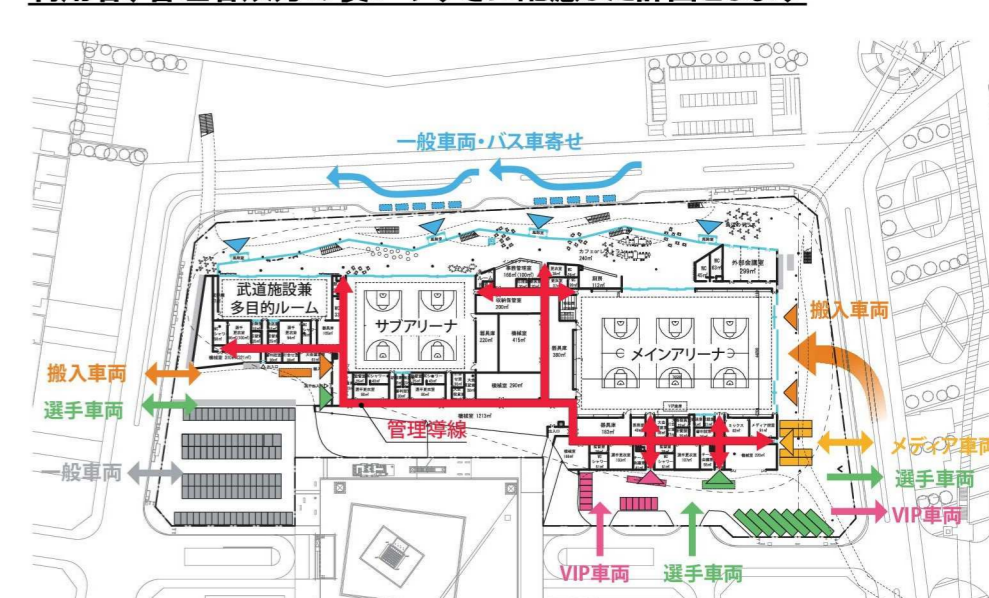
機械室を適切に分散配置することで、無駄のない設備計画とします



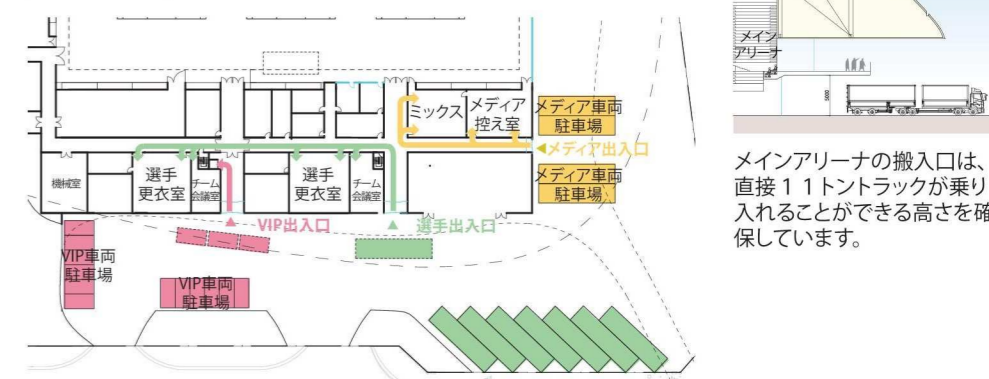
イベント時は、入場は入り口を一か所とし、退場は出口を四方に設けることで、管理しやすく明快な動線計画とします



明確に交通・搬入動線を整理し、管理ゾーンで主要な入口をつなげます利用者、管理者双方の使いやすさに配慮した計画とします



メディア動線、選手動線、VIP動線を明確に分離することで、大規模なイベントにも対応できる動線計画とします



メインアリーナの搬入口は、直接11トントラックが乗り入れることができる高さ確保しています。